

刊行にあたって

大橋幸泰(研究代表者)

本書は、2022～2025 年度、科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(基盤研究(B)(一般)22H00698)を交付された共同研究「キリシタンを通じて考える近世日本・東アジアの文化・思想・諸宗教」の中間成果報告集である。本研究は、2017～2020 年度(新型コロナウイルスによるパンデミックの影響で2021 年度まで延長)に、同じく科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(基盤研究(B)(一般)17H02392)を交付されて実施した共同研究「近世日本のキリシタンと異文化交流」を継承するものである。

本チームによる共同研究は2017 年以来組織された学際研究であり、着実にその成果を積み重ねてきた。本共同研究の参加者がそれぞれ個別に著書や論文を発表しているほか、研究チーム全体の成果として、国際シンポジウム「近世東アジアにおけるキリシタンの受容と弾圧」(早稲田大学、2019 年6 月)を開催するとともに、大橋幸泰編『近世日本のキリシタンと異文化交流』(勉誠出版、2023 年7 月)を刊行した。このような豊かな内容を前提として、現在遂行中の共同研究「キリシタンを通じて考える近世日本・東アジアの文化・思想・諸宗教」についても、いずれその成果をまとめる予定であるが、その公表にはいまだ少し時間がかかりそうである。そこで、前回の科研費で2021 年2 月に刊行した『「近世日本のキリシタンと異文化交流」中間成果報告集』と同様に、今回の科研費でも中間成果報告集を刊行することにした。それが本書である。

したがって、これまた前回の中間成果報告集と同様に、本書の内容は議論の前提となる史料の紹介や問題意識を開陳するものであり、十分に煮詰まっていないものであることを告白しなければならない。しかし、本書の編集・刊行により、新たに発見した史料や従来とは異なる論点を提示できたと自負しており、共同研究の集大成となる研究論文集刊行に向け、モチベーションは高まった。

本研究は、近世期の日本を含む東アジア全体に目配せして、キリシタンをめぐる問題とそれに関連した異端的宗教活動から派生する文化・思想を総合的に考察することを企図している。もちろん総合性という意味ではまだまだ不十分であるが、その成果の一端を公表して、議論の足がかりにしたいと思う。

2025 年9 月1 日